

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-202831

(P2017-202831A)

(43) 公開日 平成29年11月16日(2017.11.16)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 35/44 (2006.01)	B 6 5 D 35/44	K 3 E 0 3 5
B 6 5 D 35/12 (2006.01)	B 6 5 D 35/44	J 3 E 0 6 5
B 6 5 D 85/72 (2006.01)	B 6 5 D 35/12	3 E 0 8 4
	B 6 5 D 85/72	D

審査請求 有 請求項の数 6 O L (全 16 頁)

(21) 出願番号	特願2016-93777 (P2016-93777)	(71) 出願人	507147998
(22) 出願日	平成28年5月9日 (2016.5.9)	小菅 義則	
		栃木県那須郡那須町富岡 1 2 7 1 - 2 3	
		(71) 出願人	516135508
		小菅 瑞穂	
		栃木県那須郡那須町富岡 1 2 7 1 - 2 3	
		(74) 代理人	100110434
		弁理士 佐藤 勝	
		(72) 発明者	小菅 義則
		栃木県那須郡那須町富岡 1 2 7 1 - 2 3	
		(72) 発明者	小菅 瑞穂
		栃木県那須郡那須町富岡 1 2 7 1 - 2 3	
		Fターム(参考)	3E035 AA19 BA07 BB05 BB10 BD02 CA02

最終頁に続く

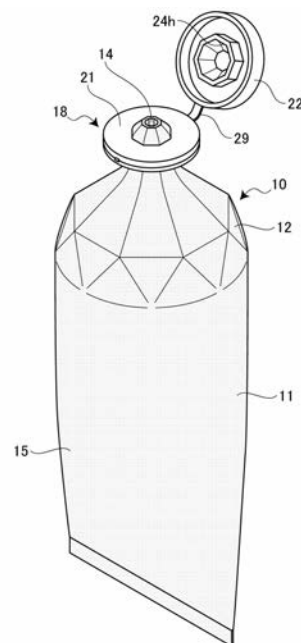
(54) 【発明の名称】 キャップ付き容器

(57) 【要約】

【課題】 比較的に粘性の高い流動物を内容物としながら容器中身のほぼ全量を使い切ることが可能なキャップ付き容器の提供を目的とする。

【解決手段】 本発明のキャップ付き容器は、一部に形成した口部を介して内容物を外に出すことができる可とう性収納部と、前記可とう性収納部の前記口部の周辺から該口部の中心より外側に延長される鍔部と、前記鍔部に配設され、前記可とう性収納部の前記口部を開閉するキャップ部とを有し、前記可とう性収納部の口部は容器の内側から外側に向かって先細り形状を有する。キャップ部が鍔部に支持されるため、内容物を残さずに外に出すことができる。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

一部に形成した口部を介して内容物を外に出すことができる可とう性収納部と、
前記可とう性収納部の前記口部の周辺から該口部の中心より外側に延長される鏝部と、
前記鏝部に配設され、前記可とう性収納部の前記口部を開閉するキャップ部とを有し、
前記可とう性収納部の口部は容器の内側から外側に向かって先細り形状を有することを
特徴とするキャップ付き容器。

【請求項 2】

請求項 1 記載のキャップ付き容器であって、前記内容物は粘性流動体であることを特徴と
するキャップ付き容器。

10

【請求項 3】

請求項 1 記載のキャップ付き容器であって、前記キャップ部には前記鏝部と当接する領域
にキャップ側係合部が設けられ、前記鏝部の少なくとも上面若しくは下面のいずれかには
前記キャップ側係合部と係合するための鏝側係合部が設けられ、これらキャップ側係合部
と鏝側係合部が係合することで、前記キャップ部が前記鏝部に固定されることを特徴とす
るキャップ付き容器。

【請求項 4】

請求項 3 記載のキャップ付き容器であって、前記キャップ部は、前記鏝部に取り付けられ
る本体部と、その本体部に対してヒンジ部を介して開閉する蓋部とからなり、前記キャッ
プ側係合部は前記本体部の上面若しくは下面に配設され、前記キャップ側係合部に前記鏝
側係合部が係合することを特徴とするキャップ付き容器。

20

【請求項 5】

請求項 3 記載のキャップ付き容器であって、前記キャップ側係合部は前記鏝部を挟み該鏝
部に対して固定されることを特徴とするキャップ付き容器。

【請求項 6】

請求項 3 記載のキャップ付き容器であって、前記鏝部は可とう性樹脂材からなり、前記キ
ャップ部と係合される前に変形されて当該キャップ部に設けられた孔若しくは切欠き部を
通過することを特徴とするキャップ付き容器。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】**

30

【0001】

本発明は、比較的粘性の高い流動物を収容するキャップ付き容器であり、特に容器内
に残存してしまう内容物の量を低減させるキャップ付き容器である。

【背景技術】**【0002】**

比較的粘性の高い流動物、例えば、マヨネーズ、トマトケチャップ、練り歯磨き粉、
化粧品などの流動物は、概ね可とう性の収納部などに収容され、使用時にはその収容部を
指などで押すことで中身の流動物を出すことができる。可とう性の収納部は、ガスバリヤ
性などの観点から、例えばエチレン・ビニルアルコール共重合樹脂とポリエチレン等のポ
リオレフィン樹脂などとの多層構造とされることが多い。

40

【0003】

しかし、これらの容器を使用して中身の粘性に高い流動物を出していき、残りが少なく
なってきたときには、流動物を容器の外部に容易には出せなくなる。これは可とう性を有
する容器を採用した場合でも、口部の近傍では該口部の或る程度の強度を保つ目的で、口
部周辺では固い樹脂のキャップ等が取り付けられていたり、口部近辺の樹脂の厚みを収納
部よりは厚くするような設計とされており、樹脂の強度が高い口部近辺では、押し出され
ずに粘性の高い流動物が残ってしまう。このような問題に対処する容器の構造として、底
付きの小さい容器を取り付ける構造も知られている（例えば、特許文献 1 参照。）。

【先行技術文献】**【特許文献】**

50

【 0 0 0 4 】

【特許文献 1】特開平 1 0 - 5 3 2 6 4 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 5 】

ところが、容器中身の全量を使い切る構造として、底付きの小さい容器を用いる構造では、構造が複雑化してしまい、また、残量を気にする以前の段階では、小さい容器の比較的に小さな出口を使って流動物が出されるために、多量に出そうとした場合には時間がかかるという問題も生じる。さらには、粘性の高い流動物がその小さい容器の内側に残留するようなこともあり、容器中身の全量を使い切ることは容易ではなかった。

10

【 0 0 0 6 】

そこで、本発明は上述の技術的な課題に鑑み、比較的に粘性の高い流動物を内容物としながら容器中身のほぼ全量を使い切ることが可能なキャップ付き容器の提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

上述の技術的な課題に鑑み、キャップ付き容器は、一部に形成した口部を介して内容物を外に出すことができる可とう性収納部と、前記可とう性収納部の前記口部の周辺から該口部の中心より外側に延長される鐳部と、前記鐳部に配設され、前記可とう性収納部の前記口部を開閉するキャップ部とを有し、前記可とう性収納部の口部は容器の内側から外側

20

【発明の効果】

【 0 0 0 8 】

本発明のキャップ付き容器によれば、前記口部の周辺から該口部の中心より外側に延長される鐳部に前記口部を開閉するキャップ部が配設され、口部は容器の内側から外側に向かって先細り形状を有することから、鐳部の内側では前記可とう性収納部は比較的に大きな径を有することとなり、前記可とう性収納部を押圧することで、その口部近辺では粘性の高い流動物が残存することなく、ほぼ全量容器の外側に出すことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 9 】

30

【図 1】本発明の第 1 の実施形態のキャップ付き容器の構造を示す概略斜視図である。

【図 2】本発明の第 1 の実施形態のキャップ付き容器を一部破断した分解斜視図である。

【図 3】本発明の第 1 の実施形態のキャップ付き容器の縦断面図である。

【図 4】本発明の第 2 の実施形態のキャップ付き容器の構造を示す概略斜視図である。

【図 5】本発明の第 2 の実施形態のキャップ付き容器を一部破断した分解斜視図である。

【図 6】本発明の第 2 の実施形態のキャップ付き容器の縦断面と水平断面を並べた図である。

【図 7】本発明の第 3 の実施形態のキャップ付き容器の概略斜視図である。

【図 8】本発明の第 3 の実施形態のキャップ付き容器の要部断面図である。

40

【図 9】本発明の第 4 の実施形態のキャップ付き容器の要部分解斜視図である。

【図 10】本発明の第 4 の実施形態のキャップ付き容器の要部概略斜視図である。

【図 11】本発明の第 5 の実施形態のキャップ付き容器の要部分解斜視図である。

【図 12】本発明の第 5 の実施形態のキャップ付き容器の要部概略斜視図である。

【図 13】本発明の第 6 の実施形態のキャップ付き容器の要部分解斜視図である。

【図 14】本発明の第 6 の実施形態のキャップ付き容器の要部概略斜視図である。

【図 15】本発明の第 7 の実施形態のキャップ付き容器の要部分解斜視図である。

【図 16】本発明の第 7 の実施形態のキャップ付き容器の要部概略斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 0 】

50

第 1 の実施形態

本発明の好適な実施形態について図面を参照しながら説明する。図 1 乃至図 3 は、本発明の第 1 の実施形態のキャップ付き容器 10 を示す図である。第 1 の実施形態のキャップ付き容器 10 は、樹脂材料などの可とう性材料により形成された容器本体 11 と、その容器本体 11 の口部 14 の近傍に形成された鐳部 16 と、その鐳部 16 に取り付けられたキャップ部 18 とを有している。

【0011】

容器本体 11 は、底面部で直線状に融着されその底面から略円筒形状に立ち上がりながら膨らむ形状の胴部 15 を有し、その胴部 15 から先端側には、概ね三角形のファセットの如き複数の面を表面とし口部 14 に向けて先細り形状とされた肩部 12 が連続する。この容器本体 11 の肩部 12 では、その水平断面が略八角形とされるが、その角は丸く形成されていても良く、全体として円形に近い略八角形状であっても良い。その肩部 12 の先端側には、当該容器本体 11 が収納する内容物を外に出すことができる、容器内外を貫通する円形状の口部 14 が形成されている。容器本体 11 は、例えば、溶融成形が可能でガスバリア性に優れるエチレン - ビニルアルコール共重合体 (EVOH) 層と、オレフィン系樹脂等を主成分とする熱可塑性樹脂層とを積層させたフィルムやシートを加工して形成され、使用者が手に持って胴部 15 を加圧することで、比較的粘性の高い流動物、例えば、マヨネーズ、トマトケチャップ、歯磨き粉、クリームその他の化粧品などの流動物を口部 14 から押し出すことができる。

【0012】

容器本体 11 の肩部 12 は、胴部 15 側で略円筒形状に拡がってその胴部 15 と連続し、口部 14 側では細くされ、容器の内側から外側に向かって先細り形状とされる。胴部 15 が口部 14 と比べてその径が大きいため、使用者が容器本体 11 に押圧を加えたときには、胴部 15 が変形して肩部 12 内に存在する内容物にも確実にその圧力が加わり、内容物を容易に口部 14 から外に出すことができる。この肩部 12 の先細りとされた口部 14 に近い位置の外側には、図 2 に示すように、容器本体 11 の長手方向を軸方向とした場合に径方向である水平面に延長される平板円環状の鐳部 16 が一体に設けられている。この鐳部 16 は、口部 14 より少し胴部 15 側の位置から径方向外側に延在されており、この鐳部 16 には当該容器本体 11 の口部 14 を開閉するキャップ部 18 を取り付けることができる。鐳部 16 には、所定の間隔を以て周囲に並ぶように鐳側係合部としての複数の貫通孔 17 が当該鐳部 16 の厚みを貫通した概ね十字の切欠きにより形成されている。鐳部 16 は、容器本体 11 の肩部 12 の一部を延長させることで形成することができ、肩部 12 を変形させて構成することもでき、一旦別部材で形成した鐳部 16 を肩部 12 と接する部分で熔着することもできる。鐳部 16 の構成材料は、容器本体 11 と同様に可とう性の材料を選択することができるが、キャップ部 18 を支持できる材料であれば、容器本体 11 の構成材料よりもやや固い樹脂材を選択することも可能である。なお、鐳部 16 は、キャップ部 18 を取り付け際には、肩部 12 に沿って曲げられてキャップ部 18 の中央口 19 を介してキャップ部 18 の本体部 20 の上面まで引き出される。

【0013】

キャップ部 18 は、鐳部 16 に取り付けられる円盤状の本体部 20 と、その本体部 20 に対してヒンジ部 29 を介して開閉する円盤状の蓋部 22 と、円盤状の鐳部 16 を挟み込むための円盤状の挟持部 21 とからなる。挟持部 21 も本体部 20 に対して図示しないヒンジ部を介して開閉する。円盤状の本体部 20 と円盤状の挟持部 21 には、それぞれ略八角形の中央口 19、23 が形成され、これら中央口 19、23 は容器本体 11 の口部 14 を挿通させる。キャップ部 18 の本体部 20 の上面で複数の前記貫通孔 17 に対応する位置には、キャップ側係合部の一例である複数の突起部 28 が形成されており、挟持部 21 を閉じた際には、挟持部 21 裏面の対応する位置に形成された図示しない嵌合孔にそれぞれ突起部 28 が嵌合し、鐳部 16 を本体部 20 と挟持部 22 で挟み込んで保持することができる。

【0014】

なお、このような鍔部 16 とキャップ部 18 の間の固定構造は、一例であり、逆にキャップ部 18 の挟持部 21 側に突起を形成し、鍔部 16 側に対応する貫通孔を形成し、キャップ部 18 の本体部 20 に嵌合部を形成して、鍔部 16 をキャップ部 18 の挟持部 21 と本体部 20 の間に挟み込むこともできる。また、キャップ部 18 の固定方法としては、鍔部 16 にホットメルト系の接着剤を用いる方法や超音波融着などの方法を用いることも可能である。また、鍔部 16 と肩部 12 の接続部分に切り取り線を予め形成しておき、キャップ部 18 を分別する際には、強い力で切り取り線に沿って破断するようにしても良い。さらに挟持部 21 はキャップ部 18 の本体部 20 に対してヒンジ部を形成して開閉する機構としているが、挟持部 21 を別部品として組み込むことも可能である。

【0015】

ヒンジ部 29 を介して開閉する機構の蓋部 22 は、一例として図 1 乃至図 3 に示すように、キャップ部 18 の本体部 20 と同じ程度のサイズの円盤状部材からなる。蓋部 22 と本体部 20 は射出成形などにより、同時に形成しても良いが、別々に形成して組み合わせることも可能である。蓋部 22 は、必ずしも本体部 20 と同様なサイズではなく、容器本体 11 の口部 14 を開閉できる構造であれば、その大きさを問わない。蓋部 22 の裏側の本体部 20 に対面する側には、口部 14 に密着して当接する当接部 24h が形成され、キャップ部 18 を閉じている状態では、口部 14 から外部に内容物が漏れないようにしている。

【0016】

なお、本発明の包装容器技術において、広く知られているように、キャップ部 18 の蓋部 22 のヒンジ部 29 の反対側には、図示しない係合片などを設けて蓋部 22 を閉じたときに周縁部に係合して蓋部 22 を保持することもでき、ヒンジ部 29 も蓋部 22 を開いた時と閉じた時にそれぞれその位置が安定するような構造とすることも可能である。また、鍔部 16 の形状については、本実施形態では、円盤状としているが、三角、四角や六角、八角などの多角形や、楕円形などの形状であっても良く、鍔部の一部や周縁部に切欠きや孔などを有していても良く、端部と先端部で厚みが変わるような形状でも良く、さらに二重構造の鍔部を有していても良い。

【0017】

本実施形態のキャップ付き容器 10 は、容器本体 11 の先細り形状とされる肩部 12 の外側に鍔部 16 が外側に延長されて形成され、その鍔部 16 にキャップ部 18 が取り付けられる。従って、容器本体 11 の内容物を最後まで使い切ろうとした場合には、使用者が指などで胴部 15 や肩部 12 自体を十分に押すことができ、口部 14 付近に内容物が量多く滞留することもないので、無駄なく内容物を絞り出すことができる。本実施形態のキャップ付き容器 10 は、特に、比較的粘性の高い流動物を内容物とする場合に有効である。詳しくは、内容物の残りが少なくなってきた場合には、最後の僅かな絞り作業を鍔部 16 のすぐ裏側の部分の肩部 12 を押圧するように行うことができる。この部分は出口である口部 14 に近いため、最終的にキャップ付き容器 10 内に残存する内容物の量を極めて少ないものにできる。

【0018】

また、本実施形態のキャップ付き容器 10 は、鍔部 16 と肩部 12 の間に断続的な切り込みからなる切り取り線を予め設けておき、最終的な絞り作業する際や、容器全体を廃棄する場合にキャップ部 18 を分離するために、鍔部 16 と肩部 12 の間を切り取り線に沿って分断することもでき、キャップ部 18 とり除いた後では、最終的な絞り作業を更に容易に進めることができる。

【0019】

第 2 の実施形態

本発明の第 2 の実施形態について図面を参照しながら説明する。図 4 乃至図 6 は第 2 の実施形態のキャップ付き容器 30 を示す図である。第 1 の実施形態のキャップ付き容器 30 は、樹脂材料などの可とう性材料により形成された容器本体 31 と、その容器本体 31 の口部 34 の近傍に形成された鍔部 36 と、その鍔部 36 に取り付けられたキャップ部 18 とを有している。キャップ部 18 は、先に説明した第 1 の実施形態におけるキャップ部

10

20

30

40

50

１８と実質的に同じ構造を有し、簡単のため、重複する説明は省略する。

【００２０】

図４、図５に示すように、容器本体３１は、一般的なマヨネーズの容器に近い形状を有しており、略楕円形状の底面部から次第に厚みを増加させながら上に向かって水平断面略楕円形状から水平断面角丸の三角形形状に形を変える胴部３５を有し、その胴部３５から先端側には、該胴部側で水平断面が角丸の三角形形状とされ六角錐形状の先細り形状部３３を有する肩部３２が形成されている。その肩部３２の先端側には、当該容器本体３１が収納する内容物を外に出すことができる、容器内外を貫通する円形状の口部３４が形成される。容器本体３１は、例えば、溶融成形が可能でガスバリア性に優れたエチレン・ビニルアルコール共重合体（EVOH）層と、オレフィン系樹脂等を主成分とする熱可塑性樹脂層とを積層させたフィルムやシートを加工して形成され、使用者が手に持って胴部３５を加圧することで、比較的粘性の高い流動物、例えば、マヨネーズ、トマトケチャップ、歯磨き粉、クリームその他の化粧品などの流動物を口部３４から押し出すことができる。

【００２１】

胴部３５が口部３４と比べてその径が大きいため、使用者が容器本体３１に押圧を加えたときには、胴部３５が変形して肩部３２内に存在する内容物にもその圧力が加わり、内容物を容易に口部３４から外に出すことができる。この肩部３２の先細りとされた先細り形状部３３の口部３４に近い位置の外側には、図５に示すように、容器本体３１の長手方向を軸方向とした場合に径方向である水平面に延長される平板円環状の鐳部３６が一体に設けられている。この鐳部３６は、先の実施形態における鐳部１６と同様の部材であり、当該鐳部３６に対して口部３４を開閉するキャップ部１８を支持させることができる。鐳部３６には、所定の間隔を以て周囲に並ぶように鐳側係合部としての複数の貫通孔３７が当該鐳部３６の厚みを貫通した概ね十字の切欠きにより形成されている。

【００２２】

鐳部３６は、容器本体３１の先細り形状部３３の一部を延長させることで形成することができ、先細り形状部３３や肩部３２を変形させて構成することもでき、一旦別部材で形成した鐳部３６を肩部３２と接する部分で熔着することもできる。鐳部３６の構成材料は、容器本体３１と同様に可とう性の材料を選択することができるが、キャップ部１８を支持できる材料であれば、容器本体３１の構成材料よりもやや固い樹脂材を選択することも可能である。なお、鐳部３６は、キャップ部１８を取り付ける際には、肩部３２に沿って曲げられてキャップ部１８の中央口１９を介してキャップ部１８の本体部２０の上面まで引き出される。

【００２３】

キャップ部１８は、鐳部１６に取り付けられる円盤状の本体部２０と、その本体部２０に対してヒンジ部２９を介して開閉する円盤状の蓋部２２と、円盤状の鐳部３６を挟み込むための円盤状の挟持部２１とからなる。このキャップ部１８は、口部３４に密着して口部３４を塞ぐ蓋部２２の当接部２４の形状を除いて、ほぼ同様の構成を有しており、鐳部３６を本体部２０と挟持部２１で挟み込んで保持することができる。

【００２４】

本実施形態のキャップ付き容器３０は、第１の実施形態の容器１０と同様に、容器本体３１の先細り形状部３３の外側に鐳部３６が外側に延長されて形成され、その鐳部３６にキャップ部１８が取り付けられる。従って、容器本体３１の内容物を最後まで使い切ろうとした場合には、使用者が指などで胴部３５や肩部３２自体を十分に押すことができ、口部３４付近に内容物が量多く滞留することもないので、無駄なく内容物を絞り出すことができる。特に、内容物の残りが少なくなってきた場合には、最後の僅かな絞り作業を鐳部３６のすぐ裏側の部分の先細り形状部３２を押圧するように行うことができるため、最終的にキャップ付き容器３０内に残存する内容物の量を極めて少ないものにできる。

【００２５】

第３の実施形態

図７は第３の実施形態のキャップ付き容器の斜視図であり、図８は第３の実施形態のキ

10

20

30

40

50

ャップ付き容器の要部断面図である。このキャップ付き容器 40 は、可とう性樹脂材により先細り形状に形成された容器本体の胴部 41 で内容物を収納できるように中空構造を有し、その水平断面はハート形状とされている。内容物の容器出口となる口部 44 も同様に形状がハート型とされ、鐳部 46 は胴部 41 をそのまま延長させた先細り形状部 42 の周囲に水平方向に延在される形で形成されている。同じくハート型とされた本体部 50 と蓋部 52 とこれらの間に設けられたヒンジ部 49 とからなるキャップ部 48 がその鐳部 46 に取り付けられる。詳しくは、容器本体の先細り形状部 42 から延在された鐳部 46 がキャップ部 48 の本体部 50 と挟持部 51 とによって挟まれて、キャップ部 48 は容器本体の口部 44 近辺に保持される。

【0026】

水平断面がハート形状の本実施形態のキャップ付き容器においても、上述の各実施形態と同様に、容器本体の内容物を最後まで使い切ろうとした場合には、使用者が指などで胴部 41 を十分に押すことができ、口部 44 付近に内容物が滞留することもないので、無駄なく内容物を絞り出すことができる。比較的粘性の高い流動物を内容物とする場合に有効である。特に、胴部 41 自体も先細り形状であり、口部 44 近傍の先細り部 42 とは傾斜面が直線状であり、内容物の絞り出しには極めて有利である。

【0027】

第 4 の実施形態

図 9、図 10 は第 4 の実施形態のキャップ付き容器のそれぞれ要部斜視図である。本実施形態のキャップ付き容器 60 は、鐳部 66 の外周部 67 が上向きに折れる形状を有しており、キャップ部 68 の本体部 70 と挟持部 71 とによって挟まれる構造を有している。

【0028】

すなわち、本実施形態のキャップ付き容器 60 では、容器本体 61 の先細り形状部 62 の口部 64 に近い位置には、切欠きを有した概ね平板状の鐳部 66 が形成されている。鐳部 66 は、中心から八方向に放射状に延長された帯状部を有し、その帯状部の最も外周の外周部 67 が帯状部の水平面よりは上向きに折れる形状を有しており、第 1 の実施形態の如き貫通孔は形成されていない。鐳部 66 自体も容器本体と同様な可とう性樹脂材により形成される。

【0029】

キャップ部 68 は、円盤状の本体部 70 と、本体部 70 との間で鐳部 66 を挟むための挟持部 71 と、口部 34 を塞ぐ当接部 74 を有し当該容器の蓋として用いられる蓋部 72 を有する。本体部 70 と挟持部 71 にはそれぞれ中央口 69、73 が形成され、図 10 に示すように、これら中央口 69、73 に容器本体 61 の先細り形状部 62 の口部 64 と鐳部 66 が挿通される。

【0030】

キャップ部 68 を容器本体 61 に支持させるために、挿通させた鐳部 66 はキャップ部 68 の本体部 70 の上面と挟持部 71 の裏面で挟みこんで固定される。鐳部 66 の上向きに折れた外周部 67 が本体部 70 と挟持部 71 で挟み込んだ際の抜け止めの一部として機能し、鐳部 66 にキャップ部 68 が確実に保持されることになる。

【0031】

本実施形態のキャップ付き容器 60 は、容器本体 61 の先細り形状部 62 の外側に鐳部 66 が外側に延長されて形成され、その鐳部 66 にキャップ部 68 が取り付けられる。従って、容器本体 61 の内容物を最後まで使い切ろうとした場合には、使用者が指などで容器本体を十分に押すことができ、口部 64 付近に内容物が量多く滞留することもないので、無駄なく内容物を絞り出すことができる。また、鐳部 66 の上向きに折れた外周部 67 が本体部 70 と挟持部 71 で挟み込んだ際の抜け止めの一部として機能することから、鐳部 66 にキャップ部 68 が確実に保持される。

【0032】

第 5 の実施形態

図 11、図 12 は第 5 の実施形態のキャップ付き容器のそれぞれ要部斜視図である。本

10

20

30

40

50

実施形態のキャップ付き容器 80 は、鍔部 86 の外周部 87 が下向きに折れる形状を有しており、キャップ部 88 の本体部 90 と挟持部 91 とによって挟まれる構造を有している。

【0033】

すなわち、本実施形態のキャップ付き容器 80 では、容器本体 81 の先細り形状部 82 の口部 84 に近い位置には、切欠きを有した概ね平板状の鍔部 86 が形成されている。鍔部 86 は、第 4 の実施形態と同様に、中心から八方向に放射状に延長された帯状部を有し、その帯状部の最も外周の外周部 87 が帯状部の水平面より下向きに折れる形状を有しており、第 1 の実施形態の如き貫通孔は形成されていない。鍔部 86 自体も容器本体と同様な可とう性樹脂材により形成される。この鍔部 86 の径は、第 4 の実施形態の鍔部 66 の径よりも小さく、より小さなキャップ部 88 を保持する設計とされる。

10

【0034】

キャップ部 88 は、円環状の本体部 90 と、本体部 90 との間で鍔部 86 を挟むための挟持部 91 と、口部 84 を塞ぐ当接部 94 を有し当該容器の蓋として用いられる蓋部 92 を有する。本体部 90 と挟持部 91 にはそれぞれ中央口 89、93 が形成され、図 12 に示すように、これら中央口 89、93 に容器本体 81 の先細り形状部 82 の口部 84 と鍔部 86 が挿通される。円環状の本体部 90 には、鍔部 86 の外周部 87 に対応する位置に図示しない溝部が形成され、鍔部 86 を支持する際には、図示しない溝部に鍔部 86 の外周部 87 が嵌合する。

【0035】

20

キャップ部 88 を容器本体 81 に支持させるために、挿通させた鍔部 86 はキャップ部 88 の本体部 90 の上面と挟持部 91 の裏面で挟みこんで固定される。鍔部 86 の下向きに折れた外周部 87 が、本体部 70 と挟持部 71 で挟み込んだ際に、本体部 90 に形成された図示しない溝に押し込まれ、鍔部 86 にキャップ部 88 が確実に保持されることになる。

【0036】

本実施形態のキャップ付き容器 80 は、容器本体 81 の先細り形状部 82 の外側に鍔部 86 が外側に延長されて形成され、その鍔部 86 にキャップ部 88 が取り付けられる。従って、容器本体 81 の内容物を最後まで使い切ろうとした場合には、使用者が指などで容器本体を十分に押すことができ、口部 84 付近に内容物が量多く滞留することもないので、無駄なく内容物を絞り出すことができる。また、鍔部 86 の下向きに折れた外周部 87 が本体部 90 と挟持部 91 で挟み込んだ際に図示しない溝部に嵌合されることから、鍔部 86 にキャップ部 88 が確実に保持される。

30

【0037】

第 6 の実施形態

図 13、図 14 は第 6 の実施形態のキャップ付き容器のそれぞれ要部斜視図である。本実施形態のキャップ付き容器 100 は、貫通孔 107 を有する鍔部 106 が容器本体 101 の先細り形状部 102 の口部 104 の近い側に設けられている例であり、特に第 1 の実施形態と異なっている点は、鍔部 106 には切断線 108 が形成されており、キャップ部 20 の中央口 19、23 に鍔部 106 を通過させる際には、切断線 108 の左右の鍔部 106 の片を重ねるように曲げて、さらに容易にキャップ部 20 の中央口 19、23 に鍔部 106 を通過させる構造を有する。なお、キャップ部 18 は、第 1 の実施形態と、口部 104 に密着して口部 104 を塞ぐ蓋部 22 の当接部 24a の形状を除いて、ほぼ同様の構成を有しており、鍔部 106 を本体部 20 と挟持部 21 で挟み込んで保持することができる。

40

【0038】

第 6 の実施形態では、第 1 の実施形態のキャップ付き容器と同様に、キャップ部 18 の本体部 20 の上面で複数の前記貫通孔 107 に対応する位置には、キャップ側係合部の一例である複数の突起部 28 が形成されており、挟持部 21 を閉じた際には、挟持部 21 裏面の対応する位置に形成された図示しない嵌合孔にそれぞれ突起部 28 が嵌合し、鍔部 1

50

０６を本体部２０と挟持部２２で挟み込んで保持することができる。

【００３９】

本実施形態のキャップ付き容器１００は、容器本体１０１の先細り形状部１０２の外側に切断線１０８を有する鍔部１０６が外側に延長されて形成され、中央口１９、２３に鍔部１０６を通過させる際には、切断線１０８の左右の鍔部１０６の片を重ねるように曲げて、鍔部１０６を容易に通過させることができる。また、第１の実施形態のキャップ付き容器と同様に、容器本体１０１の内容物を最後まで使い切ろうとした場合には、使用者が指などで容器本体を十分に押すことができ、口部１０４付近に内容物が量多く滞留することもないので、無駄なく内容物を絞り出すことができる。

【００４０】

10

第７の実施形態

図１５、図１６は第７の実施形態のキャップ付き容器のそれぞれ要部斜視図である。本実施形態のキャップ付き容器１１０は、所定の位置に形成された貫通孔１１７を有する鍔部１１６が容器本体１１１の先細り形状部１１２の口部１１４の近い側に設けられている。一方、キャップ部１１８は、鍔部１１６に取り付けられる円盤状の本体部１２０と、口部１１４に当接する当接部１２４を有し本体部１２０に対してヒンジ部を介して開閉する円盤状の蓋部１２２と、円盤状の鍔部１１６を挟み込むための一对の挟持部１２１ｒ、１２１ｌとからなる。一对の挟持部１２１ｒ、１２１ｌも本体部１２０に対して図示しないヒンジ部を介して開閉する。

【００４１】

20

本実施形態では、鍔部１１６にキャップ部１１８を取り付ける際には、本体部１２０の底面側で、一对の挟持部１２１ｒ、１２１ｌが開いて、露見した本体部１２０の底面に容器本体１１０の鍔部１１６を合わせ込む。この際、本体部１２０の底面から突出する突起部１２８が鍔部１１６に形成された貫通孔１１７を貫通して位置決めがなされると共に、一对の挟持部１２１ｒ、１２１ｌを閉じた際には、一对の挟持部１２１ｒ、１２１ｌに形成された嵌合部１２９に突起部１２８が嵌合して、鍔部１１６にキャップ部１１８を確実に支持させることができる。

【００４２】

このよう構成のキャップ付き容器によっても、使用者が鍔部１１６の近くの先細り形状部１１２を押すことで、内容物を無駄なく絞り出すことができる。また、さらに最後の残りの内容物を絞り出す場合には、一对の挟持部１２１ｒ、１２１ｌを開くことで、キャップ部１１８と容器本体１１０の係合を外して、残りの内容物を無駄なく絞り出すようにすることができる。比較的粘性の高い流動物を内容物とする場合に特に有効である。

30

【００４３】

上述の実施形態においては、容器本体を可とう性のある樹脂材料により形成するとして説明したが、最後の内容物を出すために可とう性が必要なのは鍔部周辺の材料が手で押し圧を加えられる構成であるので、必ずしも容器本体の全てが可とう性のある樹脂材料である必要はない。また、キャップ部の構造についても本体部にヒンジ部を介して蓋部が設けられる構成について説明したが、例えば、本体部の周囲に螺子溝を切り、そこに螺合するようなキャップ構造でも良い。口部にはプルタブなどを設けることも可能であり、シール部材や中栓などを有する構成であっても良い。

40

【符号の説明】

【００４４】

- １０ キャップ付き容器
- １１ 容器本体
- １２ 肩部
- １４ 口部
- １５ 胴部
- １６ 鍔部
- １７ 貫通孔

50

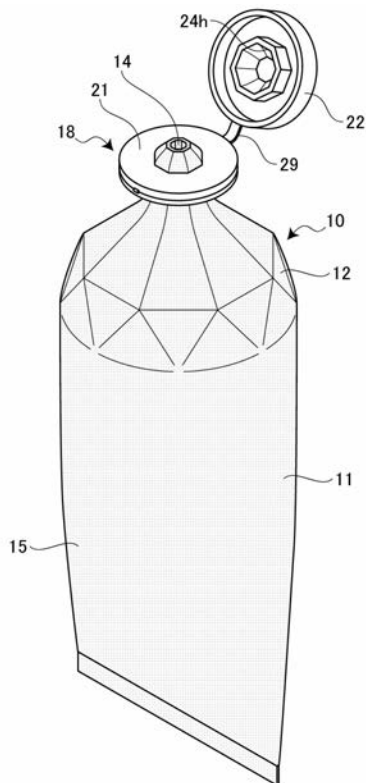
1 8	キャップ部	
1 9	中央口	
2 0	本体部	
2 1	挟持部	
2 2	蓋部	
2 3	中央口	
2 4 h、2 4 m、2 4 a	当接部	
2 8	突起部	
2 9	ヒンジ部	
3 0	キャップ付き容器	10
3 1	容器本体	
3 2	先細り形状部	
3 3	角錐部	
3 4	口部	
3 5	胴部	
3 6	鐳部	
3 7	貫通孔	
4 0	キャップ付き容器	
4 1	胴部	
4 2	先細り形状部	20
4 4	口部	
4 6	鐳部	
4 8	蓋部	
4 9	ヒンジ部	
5 0	本体部	
5 1	挟持部	
5 2	当接部	
6 0	キャップ付き容器	
6 1	容器本体	
6 2	先細り形状部	30
6 4	口部	
6 6	鐳部	
6 7	周辺部	
6 8	キャップ部	
6 9	中央口	
7 0	本体部	
7 1	挟持部	
7 2	蓋部	
7 3	中央口	
7 4	当接部	40
7 5	ヒンジ部	
8 0	キャップ付き容器	
8 1	容器本体	
8 2	先細り形状部	
8 4	口部	
8 6	鐳部	
8 7	周辺部	
8 8	キャップ部	
8 9	中央口	
9 0	本体部	50

- 9 1 挟持部
- 9 2 蓋部
- 9 3 中央口
- 9 4 当接部
- 1 0 0 キャップ付き容器
- 1 0 1 容器本体
- 1 0 2 先細り形状部
- 1 0 4 口部
- 1 0 6 鐳部
- 1 0 7 貫通孔
- 1 0 8 切断線
- 1 1 0 容器本体
- 1 1 1 胴部
- 1 1 2 先細り形状部
- 1 1 4 口部
- 1 1 6 鐳部
- 1 1 7 貫通孔
- 1 1 8 キャップ部
- 1 2 0 本体部
- 1 2 1 r、1 2 1 l 挟持部
- 1 2 2 蓋部
- 1 2 4 当接部
- 1 2 8 突起部
- 1 2 9 嵌合部

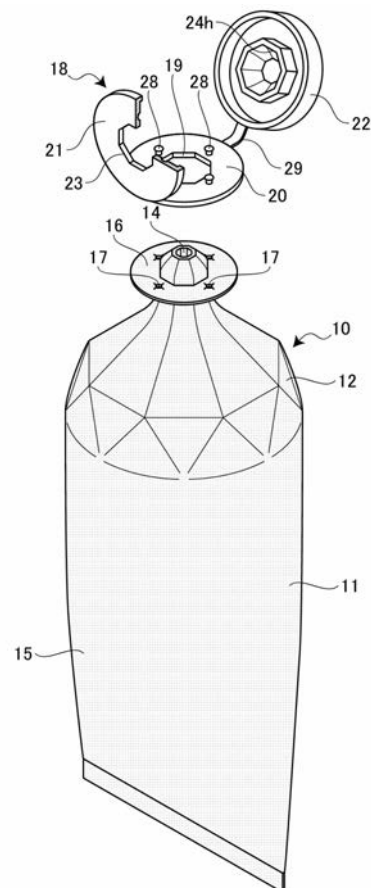
10

20

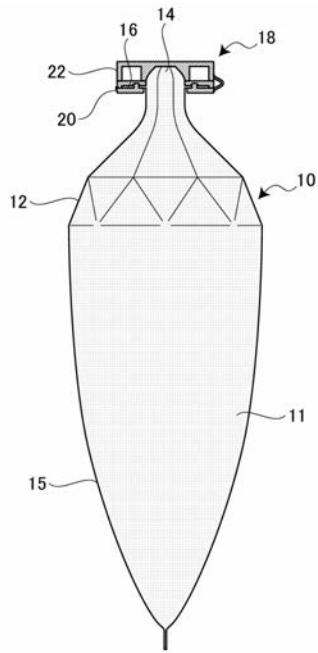
【図 1】



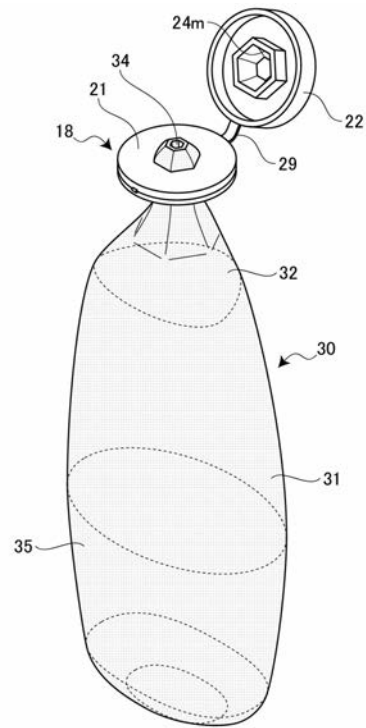
【図 2】



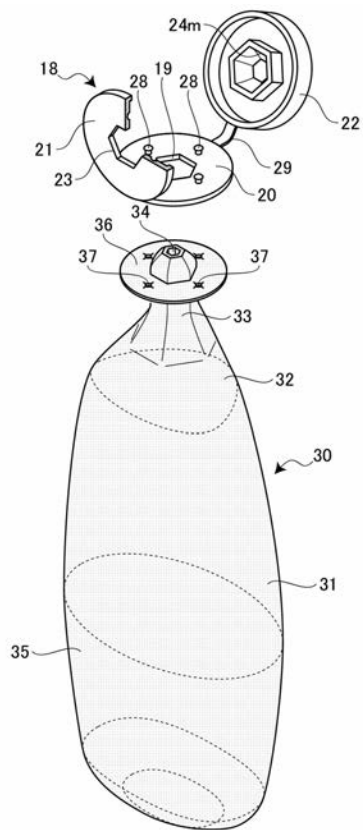
【図 3】



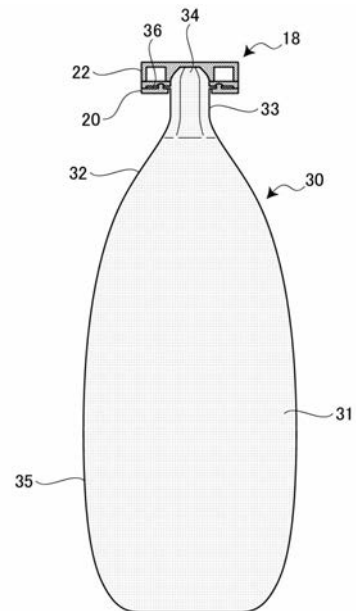
【図 4】



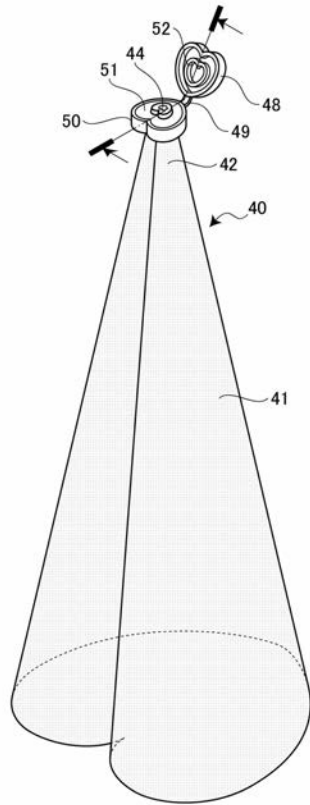
【図 5】



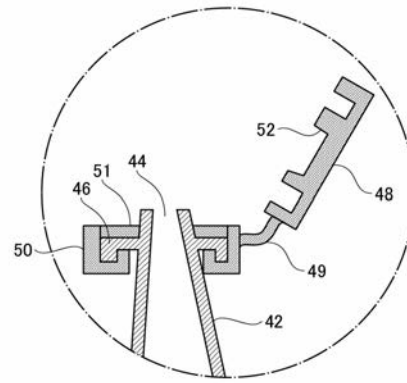
【図 6】



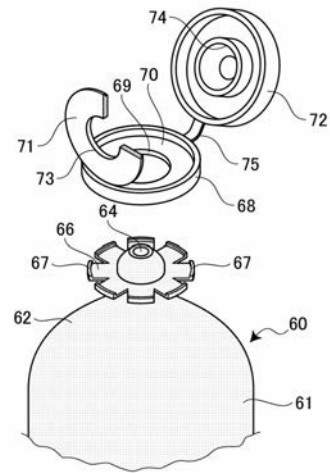
【図 7】



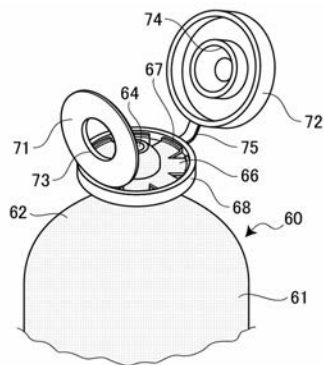
【図 8】



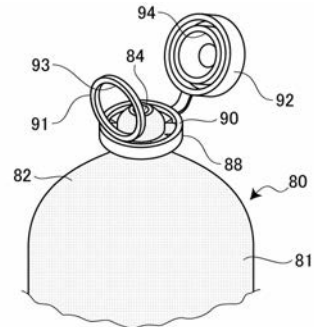
【図 9】



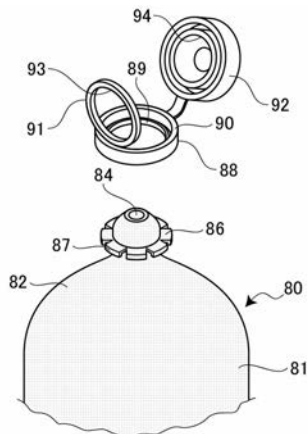
【図 10】



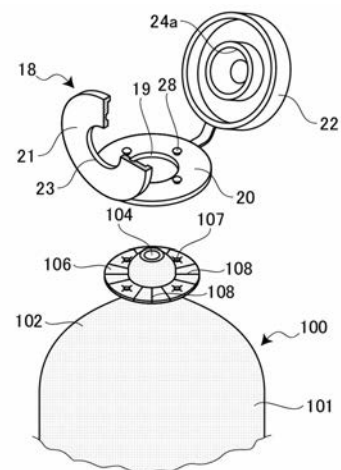
【図 12】



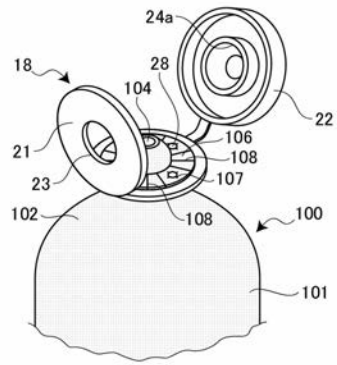
【図 11】



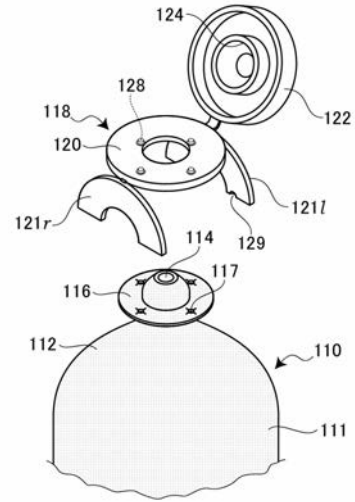
【図 13】



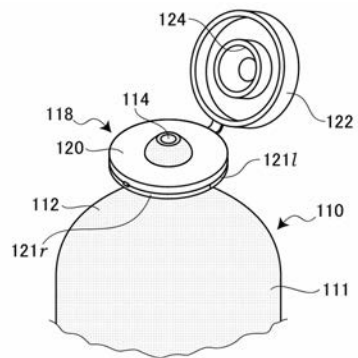
【図 14】



【図 15】



【図 16】



【手続補正書】

【提出日】平成29年6月16日(2017.6.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

一部に形成した口部を介して内容物を外に出すことができる可とう性収納部と、前記可とう性収納部の前記口部の周辺から該口部の中心より外側に延長される鏝部と、前記鏝部に配設され、前記可とう性収納部の前記口部を開閉するキャップ部とを有し、前記可とう性収納部の口部は容器の内側から外側に向って、複数の面を表面とする先細り形状を有することを特徴とするキャップ付き容器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

上述の技術的な課題に鑑み、キャップ付き容器は、一部に形成した口部を介して内容物を外に出すことができる可とう性収納部と、前記可とう性収納部の前記口部の周辺から該口部の中心より外側に延長される鏝部と、前記鏝部に配設され、前記可とう性収納部の前記口部を開閉するキャップ部とを有し、前記可とう性収納部の口部は容器の内側から外側に向って、複数の面を表面とする先細り形状を有することを特徴とする。

フロントページの続き

F ターム(参考) 3E065 AA02 BA14 BA16 BB03 CA09 DA05 DB07 DD01 DD05 DE04
FA11 GA01 GA02 GA10 JA11
3E084 AA03 AA12 AA24 AA25 AA37 AB06 AB09 BA03 CA01 DA01
DB13 FA02 FC04 GA06 GA08 GB06 JA14 LD01